

今回は、今年度はじまったFRH事業計画についてお知らせいたします！

※ 各種事業は新型コロナウイルス感染症の対応状況をふまえながら実施します。

◇ 研究主題：グローバルな視野をもち、多分野で活躍できるリーダーの育成

6年間の蓄積を基盤に、「課題解決型研究」「地域貢献」「国際交流」「キャリアプランニング」を軸とした生徒の活動を、「授業改善」を通じて支援するプログラムを展開する。目標とするグローバルな視野をもち、多分野で活躍できるリーダーの育成を達成し得る効果的な方策の研究開発を進め、SGH事業の充実を図る。

◇ 1年生・課題解決型研究 ～SDGsとまちづくり～

1年生は、関市市民協働課の協力の下、課題解決型研究に関する基礎的スキルを学ぶことから始める。各クラスでグループを編成し、SDGsに関わる地域課題を研究する過程で、コミュニケーション力や課題発見・解決力を高める。今年度も「SDGsとまちづくり」を共通テーマとする。地域課題の研究を通じてSDGs到達の道を模索し、“持続可能な地域開発”をめざす。研究成果は日本語プレゼンにまとめ、代表チームによるプレゼン大会を実施する。

◇ 2年生・課題解決型研究 ～SDGsの実現に向けて～

2年生は、1年次に習得した基礎的スキルや知識を活用し、各クラスで結成したグループごとに、SDGsに沿った具体的テーマを選定し、課題解決に向けた具体的提案、あるいは効果的な啓発活動についての研究を推進する。専門家や大学生とのディスカッション、フィールドワークやボランティアなどの実践活動を通じて研究を深める。研究成果は英語プレゼンにまとめ、代表チームによるプレゼン大会を実施する。

◇ FRHアウトリーチ（学びの成果を生かした地域貢献・啓発活動・研究発表）

大学・企業・行政機関・NPO等の外部団体との連携し、国際社会や地域課題に取り組む計画を策定し実施する。FRH事業の研究成果を広く外部に発信する広報活動を展開する。

ダイバーシティ SEKIシンポジウム 連携先： 関市、中部学院大学、当事者団体ほか

関市総合福祉会館で6月27日に実施予定。本年度もLGBTをテーマとする。本校生徒が企画・運営の中心となり、当日は発表も行う。

FRHカフェ、レモネードスタンド 連携先： JAめぐみの、農業法人PLUS、スターバックス・ジャパン、アレックスレモネードスタンドほか

フェアトレード、アグリビジネス、地産地消、小児がん対策をテーマとしたカフェやレモネードスタンドを開催予定。関高文化祭、関市環境フェア・いきいきフェスタ等。

関市制70年記念イベント 連携先： 関市ほか

本年度11月8日、市制70周年を記念した「刃物ミュージアム回廊」のオープンイベントとして「戦国☆甲子園」を開催予定。中学生による「歴史探究」「歴史遺産を生かしたまつづくり提案」の発表。このほか、市民参加型アートイベントも開催予定。

せきの未来・社会貢献プロジェクト 連携先： 関市ほか

市内の事業所と非営利団体とがビジネスと社会貢献の両立をめざすプロジェクト。現在、米粉パスタ（JAめぐみの・農業法人PLUS）、シャインカービング（義春刃物）、焼き肉のタレ（まるちゃん・JAめぐみの）の3つのプロジェクトが活動中。

関市図書館市民講座 連携先： 関市立図書館、関市観光協会ほか

関市の郷土史や歴史遺産に関する探究活動の成果を市民講座で発表する。

飛騨市美術館 公開講座「高校生の語る飛騨の自然と歴史」 連携先： 飛騨市ほか

飛騨域内の高校と協力し、飛騨の郷土史や自然に関する探究活動の成果を発表する。

美濃加茂市多文化共生プロジェクト 連携先： 美濃加茂市ほか

外国人児童への学習支援（9月30日）。多文化共生への理解を深める実践的活動とする。

アントポスSEKIシンポジウム 連携先： 中部学院大学ほか

FRH活動に関わった研究者及び生徒が企画する学術シンポジウムを開催。本年度は12月に実施予定。FRH活動や学術研究の成果を広く一般に公開することを目的とする。

てにておラジオ出演 連携先： てにておラジオ、まちかど大学ほか

岐阜市のコミュニティFM「てにておラジオ」に関高生が出演。大学教員らとともに、FRH活動や学問最前線の動向を紹介する。ぎふメディアコスモス内で収録。

◇ 国際交流

国際交流の一環として、英国ヘイドンスクールとの姉妹校提携、海外研修、校内イベント等の交流事業を推進する。

(1) 英国のヘイドンスクールとの姉妹校提携

ロンドン郊外に位置するヘイドンスクールは本校の姉妹校であり、過去3回にわたり、本校教員及び生徒が訪問し、グローバル課題やたがいの文化・社会に関する意見交換・交流活動を行った(右写真)。次年度、ヘイドン校と本校の相互訪問を計画中である。



(2) ベトナムとの交流

平成27年度、はじめてベトナムを訪問、地元企業のグローバル展開やJICA草の根事業の現状について学んだ。平成28年度はベトナムのファンボイチャウ高校・ダナン医薬技術大学を訪問し、学生と交流事業に参加した。平成29・30年度はファンボイチャウ高校・フエ大学を、令和元年度はフエ大学・グハンソン地区病院を訪問した。また、平成30・令和元年度には、フエ大学・フエ省関係者が本校を訪問し交流を続けている。

◇ FRHフロントランナー

完成度の高い研究に関しては、外部団体の審査を受けることを積極的に促し支援を行う。部活動や有志生徒を軸に研究を進めた生徒が、全国高校生歴史フォーラム、日本霊長類学会、プリマーテス学会、日本子ども学会などで研究発表を予定している。

そのほか、英語スピーチコンテスト、日本数学コンクール、英語プレゼン大会、科学の甲子園、化学グランプリ等の各種コンテストにも、例年通り、積極的な参加を促す予定である。指導に関しては本校教員のほか、連携する大学や企業、NPO法人等の専門家等、外部有識者からの助言や指導を受けることとする。

◇ 授業改善

日常における学習活動の中心は授業であり、その改善は全生徒にとって大きな効果を生むものとする。「高等学校学習指導要領」記載の学力3要素(知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度)を育成し、さらに高次元での統合をめざす授業改善を推進する。育成した力をFRH活動に活かしつつ、さらに各個人のキャリアプランに基づく進路開拓に活用する。

(1) 校内研修

- ① 定期的実施する各教科会や学年ごとの教科担当者の打合せ及び相互の授業参観において、授業内容や授業形態を研究→実践→反省(PDCA)し、指導内容や指導方法を改善する。その際、有効な指導法を模索していく。併せて、年間指導計画やシラバスの見直しも行う。

<授業形態の例>

- ・電子機器(パソコン・タブレット端末・電子黒板等)を利用した授業
 - ・コミュニケーション力・言語活用能力を高める授業(ディベート等)
 - ・課題発見・解決力を高める授業展開
- ② 教科ごとに研究授業を実施する。また年2回(6・11月)の校内職員向けの授業公開週間(2週間ずつ)を設定するとともに、生徒による授業評価及び教員による相互の授業評価を行い、主題実現に向けた職員の授業力向上を図る(右写真、保健体育科)。
 - ③ 先進校視察の報告会を職員会議や教科ごとに実施する。また職員対象の外部講師によ



る研修会も実施して職員の授業力向上や意識改革の糧とする。

(2) 教員研修の充実

先進的研究や人材開発の分野で成果を挙げている大学・学校・企業などの関係機関を、各教員自ら調査・訪問し研鑽を積む。研修成果は職員研修を通じて校内で共有し、さらに授業において還元する。

◇ キャリア教育

課題研究や貢献活動を推進する上で、生徒一人ひとりの知的好奇心や公德心を喚起し、課題研究や貢献活動に向かう意欲をおのずと促進するような働きかけとして、生徒全員を対象とした講演会のほか、キャリア教育、国際交流に関する諸事業を下記のように用意する。

(1) FRH講演会

グローバル課題や国際貢献をテーマとした講演会を以下のように設定している。

実施日未定 演題「グローバル社会と地域創生 ～公共政策から考える～」

講師： 若生幸也氏

(株式会社富士通総研公共政策研究センター長。東大先端研客員研究員)

(2) 社会連携セミナー・さくら塾

大学・企業・行政機関等の各分野で、活躍中の方々を講師とする希望者対象講演会を、社会連携セミナー「さくら塾」と題して企画する。例年、持続可能な地域開発（医療・福祉・教育等）を始めとし、様々な分野の専門家を講師に依頼している。

(3) FRHリサーチツアー

大学や研究機関、企業等を訪問し、施設見学や実験講座、体験型学習、フィールドワーク、語学セミナー等を受講する。下記に過去の事例を挙げる。

- ・先端科学リサーチツアー

東大先端科学技術研究センター、早稲田大学先端生命医科学センター

名古屋大学工学部実験講座、岐阜大学応用生物科学部実験講座

- ・企業見学

野村総合研究所(下写真)、名古屋医工連携インキュベータ、福田刃物工業

- ・語学講座、ワールドカフェ

名古屋外国語大、中部学院大、朝日大

- ・霊長類学野外実習&セミナー

京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンター、東山動植物園等

(4) 未来創造週間

大学での研究、将来の職業や将来の生き方を考えるための学年一斉の催しを「未来創造週間」と銘打って、各学年で実施している。

- ・職業別ガイダンス 1年生全員対象

様々な職業分野で活躍する社会人8~9名

を講師とする。

- ・未来創造プラン 2年生全員対象

自身の活動履歴、志望進路、将来の展望についての考えをまとめる時間をもつ。

- ・校内オープンキャンパス 3年生全員対象

大学研究者8~9名を講師とする。本年度も昨年度に引き続き金沢大学に依頼。

